# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立京都御池中学校

4月17日に本校9年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

**総合結果（国語・数学・理科）**

国語・数学・理科ともに、平均正答率は全国および京都府の平均を上回っています。また、3教科ともに各領域においてよく取り組めています。無答率も大変低く、難しい問題に対しても最後まで粘り強く考えて取り組む姿勢がうかがえました。

**国語科より**

京都府及び全国の平均正答率よりも上回る結果となり、全体的によくできているのが分かります。

特に、「読むこと」領域によく取り組めていました。「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題」の問題番号3（二）では高い正答率でした。

一方で、記述式の正答率は低い傾向にあり、課題が見られます。自分の考えを適切に表現するためには語彙を増やすことが重要です。そのために、進んで読書を行ったり、ニュースなどの情報を自分で要約したりするなど、日常生活で意識的に言葉を使うようにしましょう。

・読書をしよう
・ニュースを要約しよう

**数学科より**

全体的に平均正答率が、京都府および全国よりも上回っています。

【学習指導要領の領域】

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の中で、特に「数と式」の分野は京都府、全国とも差が小さかったです。日頃から計算に取り組むことやケアレスミスを減らしていくことを意識してみましょう。

【評価の観点】

「知識・技能」、「思考・判断・表現」の中で、特に「知識・技能」は京都府、全国とも差が小さかったです。特に、素数を答える問題の正答率が低く、計算だけでなく、言葉の定義を理解しておく必要があります。

・日頃から計算しよう
・言葉の定義を復習しよう

**理科より**

全問題において、平均正答率は全国および京都府の平均を上回っており、よくできております。

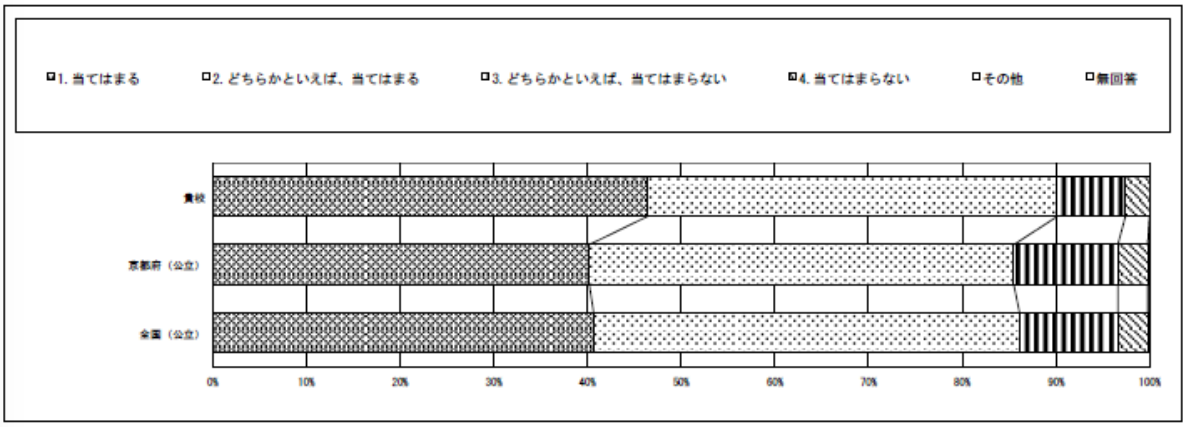
特に、評価の観点が「思考・判断・表現」に該当する、対照実験の理解が求められる問題番号2（1）や実験結果を分析する力が求められる5（2）は京都府の平均正答率より20ポイント以上上回っておりました。

一方で、各地点での柱状図から地層の広がりを予想する問題番号8（2）の平均正答率は低かったです。この問題では、時間的・空間的な見方を働かせることが重要であり、この見方は今後学習予定の単元「宇宙を観る」でも大切であるため、頑張っていきましょう。

・時間的・空間的な見方を働かせよう

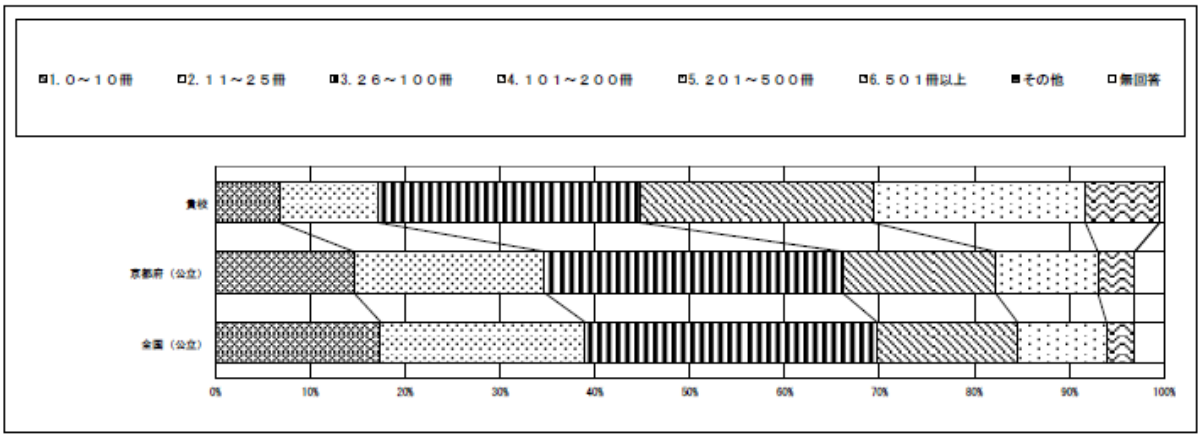
**生徒質問紙調査より①**

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答結果が全国平均より4ポイント以上高い結果となりました。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対しても、「よくある」「ときどきある」という回答結果が全国平均よりも高く、本校の生徒は、自分自身のことを肯定的に捉え、日常生活が充実していると思われます。




**生徒質問紙調査より②**

「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）」の質問に対して、「101冊以上」と答えた生徒が全国平均より17.5ポイント上回っています。また、「読書は好きですか」や「新聞を読んでいますか」といった質問についても、全国平均より大きく上回っている結果が出ており、活字に触れる機会が、日ごろから多いことがうかがえます。




## 全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自ら思考して行動することができる生徒の育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得ながら様々な取組を進めているところです。

本校の生徒は、OGGT 小中一貫教育プロジェクトで、3小学校と合同で9年間を通じて「読解力の育成」に取り組んでいます。共通の取組としては、「読解班」のグループでの活動を教科学習などに多く取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっております。

しかしながら、以前からの課題である「学力の二極化」の解消に取り組んでいく必要があります。学習指導要領にもある「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実を目指して継続的に授業改善を行っているものの、成果は十分ではないと考えております。一人一人の学びの充実を図り、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。